



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
www.hamanasu.com./dohekire

委員長 穴田 博 樹

編集責任者 柿崎 秀 顕

印刷所 広小路印刷株式会社

滝川市一の坂町西3丁目1番31号 TEL0125-22-4325

題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

第61回

北海道へき地複式教育研究大会

石狩大会特集号

夢と希望をふくらませ、
たくましく生きる石狩の子らに
豊かな心と確かな学力を！

へき地校・複式校からの発信

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 穴田 博 樹



「夢と希望をふくらませ、たくましく生きる石狩の子らに豊かな心と確かな学力を！」の大会スローガンのもと、9月20日・21日の2日間、第61回北海道へき地複式教育研究大会石狩大会が3市1町6会場で開催

されました。両日とも爽やかな秋晴れのもとに、全道各地より多くの皆様に参加していただき、盛会裏に終えることができました。本大会にかかわっていただきました全ての皆様に厚くお礼申し上げます。

石狩大会開催は平成10年度以来であり、当時の分科会場は2市1町2村の9会場で開催され、多大な成果を残した大会でありました。現在は、へき地・複式校は減少し、運営や研究体制等も厳しい状況であり、分科会の学校数も少なくなりましたが、石狩地区の確かな実践の歩みが、各分科会場校にしっかりと受け継がれていました。

言うまでもなく、本連盟はへき地・複式教育の研究を振興する団体である以上、分科会の充実が最も求められることですが、各分科会場校では、へき地・小規模・複式形態の長所を最大限に引き

出した教育実践が展開されていました。これも、各校の校長先生をはじめ教職員の情熱と使命感、それに心を揺さぶられ意欲的に学ぶ児童、学校を地域の拠点として愛する保護者や地域住民、そして開催に向けて準備をいただいた石狩大会実行委員会と関係者の皆様のご尽力のおかげです。

次年度の本大会開催地区であります日高地区を会場としたプレ研究大会も10月に終わりました。道へき・複連としましては、石狩大会の研究成果をしっかりとまとめ、日高地区に引き継いでまいります。全道各地の皆様には、来年の日高大会の成功に向けたご理解・ご協力をお願いするところで

す。現在、学校教育に求められていることで、へき地校・複式校では既に実践し成果を上げていることがたくさんあります。先達の実践に学び、道へき・複連研究推進計画を共有し継続すると共に、各地区連盟、各学校の研究を推進しながら、へき地校・複式校の実践を広く発信すべき時と思っています。

終わりになりますが、石狩大会の開催に際しまして北海道教育委員会をはじめ関係諸団体のご指導ご支援を頂きましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会を終えて



北海道教育庁石狩教育局
局長 成田 直彦

雄大な石狩平野と石狩川に抱かれた、自然美あふれる石狩の地において、全道各地から多くの先生方をお迎えし、

第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会が開催され、大きな成果を上げて終えることができましたことを嬉しく思っています。

また、北海道へき地・複式教育研究連盟におかれましては、長年にわたり組織的・計画的な研究実践に努められ、北海道のへき地・複式教育の充実・発展に多大な貢献をいただいておりますことに、心より敬意を表します。

さて、今日、学校教育においては、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、確かな学力や豊かな心、健やかな体をバランスよく育む指導の充実が一層求められております。

とりわけ、へき地・複式教育においては、小規模校の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の充実や主体的な学習態度の育成、さらに、地域や家庭と一体となった特色のある教育活動を展開することが大切です。

このような中、本研究大会においては、「夢と希望をふくらませ、たくましく生きる石狩の子らに豊かな心と確かな学力を！」を大会スローガンに掲げ、子ども同士の学び合いを積極的に取り入れ、子どもたちが教師や友だちとかがかわる中で、自ら学び自ら考える力を高める言語活動の在り方など、各教科における効果的な指導方法を追究し、その成果を全道各地に発信していただいたことは、誠に心強い限りであります。

今後とも各学校におきましては、本研究大会における成果と、学校や地域の特性を生かし、基礎的・基本的な知識及び技能、また、それらを活用する力と一人一人の豊かな人間性を育む教育活動を、積極的に展開していただくことを、心から期待しております。

結びに、公開授業や研究発表をされました石狩管内6校の校長並びに教職員の皆様をはじめ、本研究大会の開催に当たり、お力添えをいただきました関係の皆様へ深くお礼を申し上げますとともに、北海道へき地・複式教育研究連盟の益々の発展と会員の皆様のさらなる御活躍を祈念いたします。



第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会
実行委員長 若山 真
(千歳市立東小学校長)

第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会が9月20日(木)・21日(金)全道各地より約500名の皆様にご参加をいただき

無事に終了することができました。これも偏に、皆様のご支援・ご協力の賜と石狩大会実行委員会を代表して心より感謝とお礼申し上げます。

1日目、開会式、基調報告に続いて、支笏湖丸駒温泉総支配人 佐々木 義朗様の「全ては地域と共に」と題した貴重な講演、そして夕刻の歓迎交流会。2日目、3市1町6会場の授業公開と研究協議。どの会場も真剣なまなざしの子供達と指導者そして耳を澄ます参加者の姿を見ることができました。

石狩管内へき地複式教育連盟は現在3市1町9校が連携し、石狩の風土に根ざした「研究会」を構築すべき、昨年のプレ大会の成果・課題を整理し、研究の継続性、連続性のもと、実践を積み重ねて参りました。そして、本大会スローガンは、石狩の子供達の明るく豊かな成長を願い「夢と希望をふくらませ、たくましく生きる石狩の子らに豊かな心と確かな学力を」とし、キーワードを夢・希望・たくましさ・豊かな心・学びにしました。

基調報告並びに授業公開、研究協議。子どもの育ちと研究実践に対し、たくさんのご意見とご指導をいただきました。皆様からの貴重なご示唆を整理し、次年度日高大会の架け橋となれば幸いです。

へき地教師の歌「大陽になろう」のなかに「明日ひらく知恵、明日築く意志、明日つくる夢」という歌詞がありますが、21世紀を生きる子供達を育むためにこれからもへき地教育の推進に努めていきたいと思っております。

終わりになりましたが、本研究大会の開催に当たりまして、北海道教育委員会、北海道教育庁石狩教育局、石狩管内各市町村教育委員会、石狩管内教育研究会、その他関係機関等の方々、そして本大会を支えてくださった全ての皆様の温かいご支援とご協力に感謝申し上げます。

基 調 報 告

第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会

研究部長 吉 川 武 志



はじめに

◆石狩管内におけるへき地・複式教育に関する研究は、昭和20年代に始まり、昭和45年の全道へき地複式教育連盟の発足と共に、北海道方式と言われた長期・課題別・共同研究を推進し、「自ら学ぶ教育」の理念のもと、研究を重ね、管内へき地・複式教育の充実発展に大きく貢献してまいりました。現在、石狩管内へき地・複式教育研究連盟に組織されている学校は石狩市3校、江別市2校、当別町1校、千歳市3校の3市1町、計小中学校9校(併置校3校)、34学級(含む特別支援4)児童182名、教職員68名であり、ここ数年、児童数の減少が進み、極小規模化がさらに進行している状況にあります。この中であって、石狩教育研究会(石教研)の管内112校(分校を含む)2445名の会員に支えられた組織的共同研究が進められており、『一人の百歩より、百人の一步』の理念のもと、質の高い石狩の教育を実現するための石教研活動が昭和41年より、今日に至るまで40年以上続けられております。

◆石狩管内におけるへき地・複式教育に関する研究は、昭和20年代に始まり、昭和45年の全道へき地複式教育連盟の発足と共に、北海道方式と言われた長期・課題別・共同研究を推進し、「自ら学ぶ教育」の理念のもと、研究を重ね、管内へき地・複式教育の充実発展に大きく貢献してまいりました。現在、石狩管内へき地・複式教育研究連盟に組織されている学校は石狩市3校、江別市2校、当別町1校、千歳市3校の3市1町、計小中学校9校(併置校3校)、34学級(含む特別支援4)児童182名、教職員68名であり、ここ数年、児童数の減少が進み、極小規模化がさらに進行している状況にあります。この中であって、石狩教育研究会(石教研)の管内112校(分校を含む)2445名の会員に支えられた組織的共同研究が進められており、『一人の百歩より、百人の一步』の理念のもと、質の高い石狩の教育を実現するための石教研活動が昭和41年より、今日に至るまで40年以上続けられております。

石狩大会の意義と位置づけ

◆第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会は全道へき・複連の第8次長期5か年研究推進計画の4年目に当たり、実践研究整理期として重要な大会であると同時に道の第9次5か年計画策定に当たっての指針を示す意味合いを持つ大会である。

◆石狩大会では、第8次長期研究計画に即した研究の深化・充実をめざした成果を発表すると共に、新学習指導要領の全面実施に合わせた教育課程の編成・実施や思考力・判断力・表現力等を育成する基盤となる言語活動の充実などを含め、この大会を、北海道へき地複式教育の創造・検証の場として位置づける。さらには、へき地・複式・小規模の三特性をよさと捉えるにとどまらず、「へき地・複式だから」に着目し、教育の原点は、へき・複教育にこそあるとの確信のもと「へき複から光を」発していきたいと考える。

〈石狩大会〉 研究主題・スローガン・目標

◆研究主題

「主体的・創造的に学び、豊かな心で

たくましくふるさとを拓く子供の育成」

◆大会スローガン

「夢と希望をふくらませ、たくましく生きる

石狩の子らに豊かな心と確かな学力を」

◆目標

- ①地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と共に「豊かな心」を育てる学校・学級経営の創造
- ②地域に根ざした、主体的・創造的な学び合いにより「確かな学力」を育てる学習指導の創造
- ③子どもの個性に対応し、学ぶ意欲を高め、思考・判断・思考力を育成する学習活動の創造。

※石狩大会ではこれらの究明にあたるものとする。

研究の成果

- ・各ブロック(北・中央・南)での協同研究体制のもと運営校のサポートによって全道大会を開催することができた。(全体会80名、分科会427名参加)
- ・研究目標「学ぶ意欲を高め、思考判断思考力を育成する学習活動の創造」等に取り組むことにより、見通しを持ち、主体的に学習に取り組む力や表現する力が身につくなど、一定の成果が上がった。
- ・プレ大会での研究成果を踏まえて設定した、共通実践課題「見通しをどうもたせるか」「話し合いをどう深めるか」を意識した公開授業を行い、研究の深化・充実につなげることができた。

今後の課題

- ・少人数ならではのよさが生きる指導方法・体制のさらなる改善の工夫。
- ・間接指導のさらなる充実を目指し、学ぶ力を高め、相互に学び高め合う指導過程改善の工夫。

最後に

◆石狩大会の開催にあたり、道へき・複連、石狩教育局、石狩管内市町教育委員会、各分科会会場校の児童・保護者、関係の皆さまの特段のご支援・ご協力に感謝を申し上げ、報告といたします。

分科会報告

第1分科会 当別町立弁華別小学校



1. 研究主題

「自ら学びを追求し、ともに高め合う子どもの育成」～一人一人の学びが生きる複式授業の構築～

2. 研究内容

自分の経験や考えを生かしながら、粘り強く学習に向かう子、既習内容や学習経験を生かし、主体的、創造的に学習に向かう子、積極的に自分の思いや考えを伝え、学び合う子、このような子どもの姿を願い研究を進めてきた。

○仮説1『見通す』

学習過程や課題の設定の工夫などにより「教科、学習」「単元」「授業」を通した学びの見通しを持たせ、意欲的、創造的に学習を進める子どもの姿を目指した。

○仮説2『学び合う』

「伝える」「深める」「解決する交流」に分け、視点を明確にした。一人一人の学びをもとに、個の学びが生きる交流の場を設定することにより、高め合うことができる子どもの姿を目指した。

○仮説3『振り返る』

評価活動を「自己評価」「相互評価」「他者評価」とし、評価活動の設定や方法を工夫することによって、意欲的に学び続ける子どもの姿を目指した。

3. 公開授業

○3・4年生『算数科』③「重さ」④「面積」
ハムスターの体重を量る、学校の面積を調べるという学習課題のもと、自分なりの方法

で答えを導き出す授業を展開した。

○5・6年生『社会科』

⑤「自動車会社ではたらく人々」

⑥「新しい時代の幕あけ」

クイズをもとに個人課題を設定、既習経験をもとに、予想から次時への見通しをもつ授業を展開した。

○1・2年生『国語科』①「けんかした山」

②「きつねのおきやくさま」

「劇あそびをする」「お話をつくる」という見通しを立て、読み味わう。さし絵や本文にしかけをつくり、読み深めていく授業を展開した。



4. 研究協議

一人一人の子どもたちが、学びに見通しを持ち、生き生きと自ら学習に向っていることについて高い評価をいただいた。研究をベースに全学級で単元構成の工夫や学びの視点を明確にすること、直接指導時の充実や評価活動の継続など様々な手立てによる成果だという意見が出された。そして、研究内容が子どもたちにも根付いており、目的意識、相手意識を持った学びとなっていて、楽しく学ぶ姿につながっているという講評をいただいた。

第2分科会 江別市立北光小学校



1. 研究主題

「伝え合う力を高め、自ら学び合う子どもの育成」～「話す力」「聞く力」を学習の中心とした国語科の授業の創造～

2. 研究内容

主に、物語教材の指導を通して研究を進めてきた。

○仮説1「意欲的に取り組めるような学習過程の工夫」

- ・本時の学習課題をスムーズに把握させる。
- ・解決の見通しをもたせるための工夫。
- ・単元全体を通し、具体的な観点をもって読み取る。
- ・自分なりの考えをもって交流を図る。

○仮説2「話し合いの仕方や自主的な学習の進め方の工夫」

- ・本時の学習課題や学習過程を明確にする。
- ・単元の構成を具体的に工夫する。
- ・お互いの考えを交流する場面を設定する。
- ・学習の進め方を理解し、経験を積めるようにする。

3. 公開授業

①1年生『けんかした山』

2年生『きつねのおきやくさま』

教材文の間違い探しやカードの並べ替えを通して、物語のあらすじや中心人物の気持ちの変容を考えていった。

②3年生『わすれられないおくりもの』

4年生『一つの花』

リーダーを中心に話し合い、作品の題名の意味を考えていった。自分たちの意見を板書にまとめたり、ワークシートなどを効果的に使ったりした。

③5年生『大造じいさんとがん』

6年生『川とノリオ』

中心人物の気持ちの読み取りを行い、ペアで話し合っって意見交流をしたり、リーダーを中心に読み取りのまとめを行ったりした。

4. 研究協議

- ・どの授業も概ね課題をしっかりと把握し、見通しをもって学習に取り組む姿が見られた。
- ・学習過程や単元構成、読み取りの方法など、共通認識をもって一貫した指導が行われていた。
- ・課題提示の仕方の工夫がもっと必要。
- ・解決のためのワークシートの内容の工夫が必要。
- ・教師の発問の仕方についての課題を交流。



第3分科会 千歳市立支笏湖小学校

1. 研究主題

自分の考えをもち、生き生きと表現できる児童の育成～算数科における学習指導の研究～

2. 研究内容

「絵や図、操作、式、言語など自分なりの方法で問題解決していこうとする子ども」「自分の



言葉で、自分の考えを説明できる子ども」を目指す子どもの姿とし、研究を進めてきた。

- 「児童の実態把握」「教材・指導体制の工夫」
基礎・基本の学力を定着させるための工夫として、TTの活用・算数タイムの活用といった全校的な指導体制づくりに取り組んだ。
- 「自ら学び考えるための指導計画の工夫」
複式学年別指導の「支笏湖スタイル」の構築に取り組んだ。4段階の学習過程に沿って、それぞれの場面での児童の活動を低・中・高学年別に整理し、さらに教師の手立てを加え、表にまとめた。このスタイルをもとに、授業実践に取り組んできた。
- 「考えを表現するための教師の支援の工夫」
教師の働きかけに、具体的な視点を設定した。授業場面での教師の動きや言葉かけ、児童の思考の流れが明らかになり、ねらいを達成できたかという評価がスムーズに行えるようになった。



3 公開授業

- ①1年生「くらべかた」、2年生「かけ算」
〇〇作戦という自分なりの見通しのもと、考えたことをノートやホワイトボードに書き表した。教師とのやりとりを通じ、子どもたちの発言から、まとめへと結びつけることができた。
- ②5年生「単位量あたりの大きさ」、6年生「角柱や円柱の体積」
既習事項を生かした課題把握のもと、図や絵を効果的に取り入れたり順序立てて説明したりと、子どもたちの論理的な発表が見られた。

4 研究協議

「かく活動」の積み重ねで、子どもたちの考える力や表現する力が確実に身につけているこ

とが授業から実感することができた等の感想があった。参加者からも実践例が出され、ともに検証し合う有意義な話し合いとなった。

間接指導時には、主体的な学び・見通しのもたせ方の工夫・一人一人に対応する手立ての工夫が大切である。児童の主体的・創造的な学習態度の育成にしっかりと向き合っ取り組んだ質の高い授業が、子どもたちの確かな成長につながっている。との講評をいただいた。

第4分科会 千歳市立東小学校



1. 研究主題

「自ら考え、共に学び、意欲的に学習に取り組む子どもの育成」～算数科の授業を通して～

2. 研究内容

仮説1「問題解決的な学習を通し、学び方を身につけることによって主体的に学ぶ力を育成することができる。」

- ・課題提示の工夫
- ・指導過程の工夫
- ・自力解決を助ける算数的活動の充実

仮説2「考えを交流したり、練り合わせることによって、自分の思いや考えを豊かに表現し、互いに学び合い高め合う子どもを育成することができる。」

- ・「整理する・広げる・深める・焦点化を図る」活動の工夫

仮説3「一人一人に応じた支援方法や、指導に連動した評価を工夫することによって、意欲的に学び続ける子どもを育成することができる。」

- ・実態把握
- ・既習事項を生かすことができる教室環境づくりとノート指導

3年目の今年度は、「課題提示の工夫」に重点



を置き実践を行った。

3. 研究の成果

- ・子どもたちにとって分かりやすく興味を引く課題設定ができれば、子どもたちは、見通しをもち、主体的に自力解決に取り組み、自ら考えを発表することが検証された。
- ・間接指導を自力解決とし、定着の部分に集団解決を含め、直接指導とした。そのことにより、本時の目標に向けての話し合い活動がスムーズに行われ、目標達成が図られた。

4. 今後の課題

- ・6年間で子どもをどう育てていくかの共通理解を図っていく・・・指導者が替わっても学校としての基本的な学び方は変えない取り組み。
- ・色々な考え方に触れさせる
- ・少人数での考えの深め方

第5分科会 石狩市立厚田小学校



1. 研究主題

自分の考えをもち、主体的に学習に取り組む子どもの育成～国語科における「伝え合う力を高める活動」の工夫を通して～

2. 研究内容

研究仮説1にかかわって、児童に学びの必要感や成就感を促すため「児童の実態に基づいた学習目標や学習課題の焦点化」「単元を貫いた言語活動に留意した指導計画の作成」「掲示物や自己評価シートの効果的な活用」について実践検証を行った。

研究仮説2にかかわって、児童の表現力の向上や思考の深化を促すため「ペア対話から全体対話への展開を基本とした学習活動の構成」「話し合い活動のルール の定着や支援のあり方」について実践検証を行った。

3. 公開授業

①1年生『けんかした山』

山の心情について、ペアで話し合った意見を動作化を交えながら交流し合う授業を展開した。

②2年生『きつねのおきゃくさま』

心情メーターを活用しながら、きつねの心情の変化についてペアや全体で話し合う授業を展開した。

③3年生『くらしと絵文字』

4年生『一つの花』

絵文字の特長や人物の心情についてペア対話や全体対話の中で読み深める授業を展開した。

④5年生『大造じいさんとがん』

6年生『川とノリオ』

本の帯作りやポップ作りに向けて、ペア対話や全体対話の中で心情表現を読み深める授業を展開した。

⑤特別支援学級『自分のことを伝えよう』

担任との対話を通して、わかりやすく伝えることを意識しながら文章で表現する授業を展開した。



4. 研究協議

参加者からは、主体性だけでなく、児童の読み取りの力を伸ばすための話し合いの方法などについても更に実践検証をすべきなどの貴重な意見をいただいた。

また、助言者からは、「該当單元において児童が身に付けるべき言語能力の明確化」「児童の実態に即した言語活動の工夫」「少人数を生かした個の支援の充実」などの指導・助言をいただいた。

第6分科会 石狩市立望来小学校



1 研究主題

「主体的に考え、みんなで高め合う子の育成」副題として、「言語活動を通じた教科間の関連をめざして」

2 研究内容

研究仮説1「間接指導時において、交流場面に生かす手立てを工夫することにより、互いに高め合う子が育つであろう。」

研究仮説2「交流場面において、自力解決の成果を生かす手立てを工夫することにより、主体的に考える子どもが育つであろう」

ヒントカードを用意したり、同時間接指導の時間や理科の指導過程の工夫をしたりすることで、児童の自力解決を支援した。また、児童同士の高め合いの手立てとして、「バーチャルクラスメート」や交流による深まりからまとめを作らせる活動を取り入れた。自己評価シートを活用し、評価の工夫も行った。

3 公開授業

①1年生国語「けんかした山」；児童が自力解決に向かうための見通しを持たせる手立てや自力解決の際のヒントを用意した。また、児童

が意見を深めるためにパペットでバーチャルクラスメートを登場させるなど手立てを工夫した。

②3年生理科「虫を調べよう」・4年生理科「もののあたままり方」；間接指導時の考察や予想の段階で児童が自力解決をできるように、前時の振り返りや実験方法確認場面でICT資料を提示し活動させた。高め合いの場面では児童が考えを交流合う中からまとめていけるよう手立てを工夫した。

③5年生算数「単位量当たりの大きさ」・6年生算数「円の面積」；児童の円滑な自力解決につながるようにICTを活用して課題把握を行った。自力解決時に自分のつまずきに応じたヒントを選択したり、自主的にチェックボードを活用する等の手立てを工夫した。

4 研究協議

「間接指導時に、交流に生かす手立ての工夫」「高め合いの場面での自力解決の成果を生かす手立ての工夫」「他教科で身につけた言語活動について」の協議が行われた。参加者からはヒントカードの活用に対する意見、児童の能力差をカバーするための手立てに対する意見、複式指導におけるTTの在り方についての意見が出され、活発に協議が行われた。

本校では協議された内容から、成果と課題を見出し、今後の研究につなげていきたいと考えている。



参加者からの声

第1分科会 当別町立弁華別小学校

- 間接指導での子ども達の頑張りがすごい！と思いました。直接から間接へ移るときの教師の指示がしっかりしていることと、時間の設定を子どもに伝えることで見通しと意欲につながっていると思いました。
- 1. 2年では、考える手立ての習慣化が、何よりも子ども達の“自ら学ぶ”ことにつながっていることを実感しました。3～6年生は、既習事項と関連させて考えさせる手だてが効果的で、その積み重ねが“自ら学ぶ”力の育成につながるのだと思いました。また、一人学年の4年生でのキャラクターを用いた交流の在り方は、考えを深めるのに非常に有効だと思いました。

第2分科会 江別市立北光小学校

- 教具の準備が素晴らしく、課題の理解につながっていました。前時までの学習の様子が掲示され、児童の考えの手掛かりになっていました。常に同じような課題に取り組んできたと話されていた通り、いつものパターンが1年生から6年生までできていることは、本当に勉強になりました。
- 何をするかという指示がわかりやすく、子ども達の、「早くやりたい」という気持ちが、表情から伝わってきました。交流に関しては“すごい”の一言で、うまく伝えられない子もいましたが、友達の話聞き深めていたのではないかと思います。

第3分科会 千歳市立支笏湖小学校

- 学習過程が習慣化されている様子が、ノートから見て取れました。子どもにとって次に何をやるかという安心感につながっていると思います。
- 解決方法をノートに書くことで、自分の学びを確かなものにする。さらに、ホワイトボードにかき、提示することで互いの考えを比較すること。これらにより、ノートやホワイトボード等を指導過程に明確に位置付けていることが素晴らしいと感じました。

第4分科会 千歳市立東小学校

- 子ども達の学習に取り組む姿勢が素晴らしく感じました。少人数のよさはもちろんですが、指導案や活動内容が適切であることが、その要因だと思います。一人一人を大切にすることが伝わりました。
- 解決努力の場面で、児童一人一人がそれぞれ自分で考えて、それをホワイトボードにまとめる活動に黙々と取り組む姿が印象的でした。どの学年でもその姿を見ることができ、学校全体での取り組みの成果が形として表れているように思いました。どうしたらよいかわからず、手を動かしていない児童は一人もいませんでした。

第5分科会 石狩市立厚田小学校

- 学習リーダーを中心とした、学習ルールに則った話し合いが、子ども達によって進められていたのが大変すばらしいと思いました。
- 複式で難しい「わたり」を、非常にテンポよく流れるようにされていて、だから子どもの集中が途切れることなく学習に向かえるんだと思いました。また、単元で身につけるべき力を明確にして、指導事項の焦点化を図るのは、とても大切なことだと思います。本授業でも、説明文で押さえるべき「段落構成」や「問いと答えの関係」が押さえられ指導されていることがよくわかり、とても勉強になりました。

第6分科会 石狩市立望来小学校

- 他校から参観に来た者にとっては、今日の授業がどのようなものかという視点だけでなく、数年前の望来小の子ども達の実態を捉え、身につけさせたい力を見極め、そのための研究仮説を立て、実践して現在に至るまでの変遷に興味があります。自然に話し合える関係を築く、リーダーを作るなど、人との関わり方に影響のある成果が出ていることは大変参考になりました。
- お互いに意見交換ができていました。人数が少ないので交流に終わることが多いですね。ヒントカードや流れについての工夫が見られてよかったです。バーチャルクラスメイトやICTいいですね。

《次期開催地より》

第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会

◆◆◆日高の子らが皆さんをお待ちしています◆◆◆

第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会実行委員長 久住 勉

大会スローガン

日高の大地に生きる 若駒のような子らに 豊かな心と確かな学びを！

開催日

平成25年9月26日(木)；全体会（新冠レ・コード館） 27日(金)；分科会

会場校	研究主題 ～副主題～	教科 分野・課題
えりも町立 えりも岬小学校	「自ら考え、伝え合い、豊かに学び合う」子どもの育成 ～聞く・話す・話し合いの活動を通して～	国語 学習指導6・7
えりも町立 笛舞小学校	「自ら学び、伝え合い、自分の考えを深めていく子ども」を目指して ～算数指導の工夫を通して～	算数 学習指導7
浦河町立 野深小学校	自ら学び共に高め合う子どもの育成 ～「読む活動」「伝え合い活動」を通してより良い考えをもつことができる子どもを目指して～	国語 学習指導7
新ひだか町立 東静内小学校	学び合う子の育成 ～発問・指示の工夫～	国語・算数 学習指導7
平取町立 紫雲古津小学校	「自ら考えをくみため、わかりやすくつたえる子の育成」 ～算数科の思考場面、交流場面を通して～	算数 学習指導6
平取町立 二風谷小学校	自ら考え、見かたを広げ、学びあう子どもの育成 ～説明文の読み方指導を通して～	国語 学習指導7
日高町立 里平小学校	課題をとらえ、主体的に学習に取り組む子どもを目指して ～極少人数学級における効果的な算数科の学習指導のあり方～	算数 学習指導6・7

第8次長期研究推進計画の実践検証4年次に位置付けられた石狩大会が、全道各地から多くの皆さまの参加を得て開催されましたことに心から敬意を表します。運営にあられた関係者の皆さま方、本当にご苦労様でした。

次年度は、石狩大会の成果と課題を引き継ぐ日高大会を9月下旬に開催いたします。長期推進計画のまとめの年に位置付けられた大会では、学習指導分野、第6課題「主体性を育てる学習過程の改善・充実」第7課題「学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実」に焦点を当て、研究の成果を発表します。

日高管内においても統廃合は加速度的に進み、複式学級を有する小学校は、10校になっておりま

す。そのうち7校が授業公開します。

日高の複式教育は、『ガイド学習』を生み出した教育理念と課題究明に努力を払われた先達の歴史と伝統を受け継いでいます。へき地の三特性を利点と捉え、一人一人の可能性を最大限に引き出す指導の工夫改善を進めております。

日高山脈から流れ出る谷川のせせらぎに耳を研ぎ澄まし、太平洋の磯の香りに心なやませながら、北風に負けずに学ぶ日高の子どもらが皆さんをお迎えします。

全道各地から皆さんが日高の地に集い、北海道のへき地複式教育の発展に向け、共に研究を深めたいと願っております。皆さんとお会いできることを大会実行委員一同、心より願っております。